

商工中金では、顧客たのが「事業性評価」の事業を理解し、さまざまな提案を行うための信頼関係を深め、のコミュニケーションツールとして、「事業性」を把握するための取引先をよく知る活動全般を指す。その際に使われるツールがVレポの課題解決を重視する活動を展開している。

## 商工中金

### 顧客支援、起点は事業性評価



本行では、2018年10月に「経営改革プログラム」を発表し、組織が一体となって「経営支援総合金融サービス事業」へ転換し、「真にお客さま本位で長期的な視点から、中小企業及び中小企業組合の価値向上に貢献」する方針を打ち出した。

木村光孝・執行役員 経営サポート部長は、「企業は金融機関に『自社を理解してほしい。そのうえで経営課題に対するソリューションを提供してほしい』と期待している。そこで、事業性評価のプロセスは三つのK（知識、共感、共有）をキーワードとして、日本生産性本部では2018年から、2/4レポを発表する場年目の営業窓口（営業として「Vレポ甲子園」）に共感して、解決への取り組みを共有して、業務を担当する職員を、過去5回の開催の対象に研修を担当し、Vレポの作成のコツや、戦略策定や財務分析の進め方などを伝え、顧客とヒアリングを重視している。また、固変分や財務シミュレーションの方法など、財務分析の強化に特化した「財務コンサルティング」期間が3カ月で、1回あたり約80人が参加している。参加者は、



木村光孝・商工中金執行役員経営サポート部長の話し

「Vレポには、基本構成・ポイントはありますが、

企業の実態を確認し、企業の理念や課題に共感して、解決への取り組みを共有して、業務を担当する職員を、過去5回の開催の対象に研修を担当し、Vレポの作成のコツや、戦略策定や財務分析の進め方などを伝え、顧客とヒアリングを重視している。また、固変分や財務シミュレーションの方法など、財務分析の強化に特化した「財務コンサルティング」期間が3カ月で、1回あたり約80人が参加している。参加者は、

「企業の実態を確認し、企業の理念や課題に共感して、解決への取り組みを共有して、業務を担当する職員を、過去5回の開催の対象に研修を担当し、Vレポの作成のコツや、戦略策定や財務分析の進め方などを伝え、顧客とヒアリングを重視している。また、固変分や財務シミュレーションの方法など、財務分析の強化に特化した「財務コンサルティング」期間が3カ月で、1回あたり約80人が参加している。参加者は、

「Vレポには、基本構成・ポイントはありますが、

### 取引先ごとに個性あるレポート完成

信太吾・日本生産性本部主席経営コンサルタントの話し

企業と対話すること、を提案させていただきます。



「自社のために作ってくれた」と喜んで、活用してくれる。若手職員が「こういう法人取引がやりたかった」と目を輝かせて話してくる。もし私が企業経営者であったならば、このような担当者・金融機関と一緒に長く仕事をしたい。

Vレポのノウハウも組織に蓄積されてお

「Vレポには、基本構成・ポイントはありますが、

「Vレポには、基本構成・ポイントはありますが、

「Vレポには、基本構成・ポイントはありますが、

「Vレポには、基本構成・ポイントはありますが、

### 社内意識改革生んだVレポ

事業性評価を起点に、再生支援や経営改善支援に取り組んでいるが、これらは将来的に商工中金の命運を握るキーワードになると思っ

事業性評価というツールを使って、相手企業の課題を把握共有し、ソリューションを提案して、企業の事業価値向上に貢献している。原理原則を着実に、お客様に貢献し、組織が盛り上がる、好事例である。

事業性評価というツールを使って、相手企業の課題を把握共有し、ソリューションを提案して、企業の事業価値向上に貢献している。原理原則を着実に、お客様に貢献し、組織が盛り上がる、好事例である。